

陳 情 文 書 表

平 3 0 陳 情 第 1 9 号	平成 3 0 年 1 1 月 1 5 日 受 理
件 名	若年層の意見を取り入れ、地域資源を活かした観光ビジネスモデルの実現を求める陳情
陳 情 者	秦野市平沢 2 5 5 0 - 1 (公益社団法人秦野青年会議所内) 秦野高校生議会 2 0 1 8 地域活性委員会 委員長 加藤 凌大
陳 情 の 要 旨	
<p>現在、秦野市では民間企業とともに市内外からの誘客、そして地域経済の活性化を図るために、様々なプロモーションや新たな企画を実行されていますが、若年層をターゲットとしたものは少なく、私たち高校生が興味を持つような具体的な政策は出されていないと感じました。</p> <p>そこで、新たな観光ビジネスモデルとして、市街地の空き店舗を利用したアンテナショップや、登山道の入口に山小屋風のお洒落なカフェを設置することを提案します。例えば、カフェのメニューに秦野の名産を使用し、インスタグラム等のSNSで拡散していけば店とともに秦野の名産も認知していただけたと思います。</p> <p>また、若年層の集客を目的としたインスタ映えスポットとして、高校生が主体となり、企画並びに運営することを提案いたします。これらの企画、運営に携わる高校生は、新たな視点で地域を知ることとなり、地元に対する興味が高まれば、秦野市に対する愛着を深めることにもつながります。そして、インスタグラム等のSNSを積極的に活用して、もっと多くの若年層を秦野市に呼び込めば、まちの雰囲気は若返り、市内に活気が生まれるとともに、市内外の若者に地域の魅力を肌で感じてもらうことが可能です。</p> <p>このような観光ビジネスモデルが確立すれば、若者にとって秦野市がもっと身近な存在になります。そして、一人でも多くの若者が、このまちを好きになれば、将来の定住につながる可能性も高まり、市内の人口減少対策の一助になると考えます。</p>	
陳情事項	
<ol style="list-style-type: none"> 1 高校生の意見を実際に取り入れ、より具体的に観光事業を進めて行くための場所を設けてほしい。 2 秦野の名産を使った飲食店やおみやげ屋など、秦野市や丹沢を今まで 	

以上に発信する施設を開設してほしい。

3 秦野の水や山を生かしたイベントを確立してほしい。

4 SNSやインターネットなどデジタル媒体だけではなく、既存のポスターやチラシのアナログ媒体も併用した老若男女に対応した広報をしてほしい。